

開講科目名 / Course	独唱 / Solo (Voice Performance) I
時間割コード / Course Code	3221240043
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教育学部 /
曜日コマ / Day, Period	月 / Mon 4
開講区分 / Semester offered	前期 / first semester
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	杉原 かわり / SUGIHARA KAORI
科目区分 / Course Group	専門教育科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	杉原 かわり / SUGIHARA KAORI (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2~3
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	学校教育の授業に必要な、癖のない自然で無理のない発声で歌うことができること (見通す力, 学び続ける力) 歌唱の技術とは何かを考えることができること (解決する力)
授業の概要 / Summary of the class	ヴォカリティ (母音唱法) を通して発声の基礎の定着を図ります。発声の基盤となる呼吸、母音の響きの統一を重点に据え、息のレガートを習得します。
授業の内容予定 / Contents plan of the class	以下の内容を、それぞれの授業の中で個人の習熟度に合わせた発声指導・歌唱指導を交えながら行います。 第1回 発声の基礎 1 音声学入門 発声の仕組み 第2回 発声の基礎 2 発声器官から見る声質 第3回 発声の基礎 3 声質と楽曲 第4回 課題研究「歌手と声質」(レポート) 第5回 発声から見た声楽史 第5回 言語と発声 第6回 コンコーネ課題 1 イタリア歌曲 1 を独唱 第1グループ 第7回 コンコーネ課題 2 イタリア歌曲 2 を独唱 第2グループ 第8回 コンコーネ課題 3 イタリア歌曲 3 を独唱 第3グループ 第9回 山田耕筰と歌曲 第10回 課題研究「山田耕筰と北原白秋」 第11回 コンコーネ課題 4 中学校歌唱共通教材より独唱 第1グループ 第12回 コンコーネ課題 5 中学校歌唱共通教材より独唱 第2グループ 第13回 コンコーネ課題 6 声質に合った歌曲の独唱 第1グループ 第14回 コンコーネ課題 7 声質に合った歌曲の独唱 第2グループ 第15回 コンコーネ・任意の歌曲の発表
成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	実技教科の特性上、日々の練習の積み重ねを重視し、毎時間毎の課題習得度と取り組み姿勢 (80%)、演奏発表 (20%) を総合的に評価する予定です。
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	基礎練習や与えられた課題の練習を毎日40分以上行うこと。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	コンコーネ 50 番(中声用・全音楽譜出版社)、イタリア歌曲集他
参考文献 / bibliography	授業中指示します。

留意点・予備知識 /Point to keep in mind, background	外国語（ヨーロッパ語圏の言語）・文学・歴史などに興味を持ち、声楽だけでなく、音楽史、ソルフェージュ、ピアノなど音楽全般について深く勉強してください。
授業内容に関する質問・疑義等 /Question, doubt about class contents	月曜日 12:00 ~ 12:30
Eメールアドレス・HPアドレス /E-mail address, HP address	kabochan<A>hirosaki-u.ac.jp <A>は@のことです。
学問分野1（主学問分野） /Discipline 1	A01: 思想，芸術およびその関連分野
学問分野2（副学問分野） /Discipline 2	A09: 教育学およびその関連分野
学問分野3（副学問分野） /Discipline 3	A02: 文学，言語学およびその関連分野
実務経験のある教員による授業科目について /About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 /Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 /Class form, class method	集団指導と個人指導を両方行います。
科目ナンバー /The subject number	P1-2-0265-A01
メディア授業による著作物利用の有無について /Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 /Others	実務経験のある教員による授業科目について：公立中学校教諭（7年）、海外でのオペラ歌手としての経験がある。

開講科目名 / Course	音楽科教育法 / Curriculum and Instruction in Teaching Secondary Music I
時間割コード / Course Code	3221250021
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教育学部 /
曜日コマ / Day, Period	水 / Wed 2
開講区分 / Semester offered	前期 / first semester
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	今田 匡彦 / IMADA TADAHIKO
科目区分 / Course Group	専門教育科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	今田 匡彦 / IMADA TADAHIKO (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 1 見通す力 CP・DP 2 解決していく力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	<p>一般目標： 音楽とは何か、何が音楽か、そのために音楽教育はどうあるべきかを自分の言葉で考え、実践できる能力を身につけること そのための基盤として学習指導要領に示された目標や内容を理解すること</p> <p>到達目標： 学習指導要領における音楽科の目標、内容を含む全体構造を理解していること（見通す力） 音楽科の学習内容について指導上の留意点（各領域、分野の関連性及び生徒の創意工夫等）を理解していること（見通す力） クリエイティビティとコミュニケーションを基盤とした音楽の学習評価の考え方を理解していること（見通す力） 音楽科の背景となるさまざまな音楽教育思想を理解し、教材研究に活用することができること（解決する力） 科学や他の芸術、環境と音楽科との繋がりを探求し、学習指導への位置付けを考察することができること（解決する力）</p>
授業の概要 / Summary of the class	<p>1) サウンドスケープ思想を基盤として提唱されたサウンド・エデュケーションにより、原初の音楽と音楽教育の在り方を見通す。</p> <p>2) 創作を通して、表現・鑑賞領域の実践的融合方法を身に付け現在の音楽教育の諸問題を解決する。</p>
授業の内容予定 / Contents plan of the class	<p>第1回：言葉と音楽（音楽科における言語活動について） 第2回：soundwalk（鑑賞領域の新たなアプローチ：創意工夫を踏まえて） 第3回：graphic score（鑑賞と表現（創作分野との連関） 第4回：paper project 1（身近な素材による鑑賞、創作、器楽の連関） 第5回：音を創る（創作、器楽の有機性を基盤としたActive Learning） 第6回：paper project（広場の音楽について） 第7回：ミメーシス（身近な素材による鑑賞、創作、歌唱の連関） 第8回：voice project（創作、歌唱を基盤としたActive Learningについて） 第9回：西洋の音階について（移動ドと固定ド） 第10回：身体と音楽：sound exchange（協働について） 第11回：音楽と振付（身体を通じた鑑賞活動について） 第12回：中学校音楽科 新学習指導要領：第5節音楽 について 第13回：インクルーシヴ教育と音楽科のUniversal Designについて 第14回：協働、創意工夫、Active Learning, Universal Designのまとめ 第15回：作品発表（Teamsによる双方向授業）</p> <p>これらの項目について、哲学的、歴史的背景も踏まえつつ考えていきます。尚、授業の進行状況に応じて内容が変更されることがあります。</p> <p>授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。メディア授業実施の場合はTeamsを使用します。</p>

成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard	グループごとによる課題発表により評価します(ターム・ペーパーを課すこともある)。課題発表:100%(タームペーパーを貸す場合は、課題発表:70%;タームペーパー:30パーセント)。
予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review	予習及び復習については講義中に指示する。1週間に4時間(1日40分)の予習・復習が必要。
教材・教科書 / The teaching materials, textbook	R・マリー・シェーファー&今田匡彦『音さがしの本』増補版(春秋社) 学習指導要領
参考文献 / bibliography	ジョン・ペインター『音楽を創る可能性』(音楽之友社) 三浦雅士『身体の零度』(講談社選書メチエ) 三浦雅士『バレエ入門』(新書館) 今田匡彦『哲学音楽論:音楽教育とサウンドスケープ』(恒星社厚生閣)
留意点・予備知識 / Point to keep in mind, background	音楽と他芸術、科学、環境等の関連について関心を持つ。
授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents	メールにてアポイントを取って下さい
Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	timada[A]hirosaki-u.ac.jp [A]は@のことです。
学問分野1(主学問分野) / Discipline 1	A09:教育学およびその関連分野
学問分野2(副学問分野) / Discipline 2	A01:思想,芸術およびその関連分野
学問分野3(副学問分野) / Discipline 3	A02:文学,言語学およびその関連分野
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	なし
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	講義+演習
科目ナンバー / The subject number	P1-2-0636-A09
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有/Yes
その他 / Others	特になし。

開講科目名 / Course	独奏および伴奏 / Instrumental Solo and Accompaniment
時間割コード / Course Code	3222240124
ナンバリングコード / Numbering Code	
開講所属 / Course Offered by	教育学部 /
曜日コマ / Day, Period	木 / Thu 3
開講区分 / Semester offered	後期 / second semester
単位数 / Credits	1.0
学年 / Year	1,2,3,4
主担当教員 / Main Instructor	小田 直弥 / ODA NAOYA
科目区分 / Course Group	専門教育科目
教室 / Classroom	
必修・選択 / Required/Elective	
授業形式 / Class Format	
メディア授業 / Media lecture	-
担当教員名 / Instructor (担当教員所属名 / Affiliation)	小田 直弥 / ODA NAOYA (教育学部 /)
難易度 (レベル) / Level	レベル2
対応するCP / DP / CP/DP	CP・DP 2 解決していく力 CP・DP 3 学び続ける力
授業としての具体的到達目標 / Concrete arrival target as the class	テクニックと体の使い方を身につけること (解決する力) 楽曲の様式や構造等を理解し、表現すること (学び続ける力) 伴奏を通して、アンサンブルの素地を身につけること (学び続ける力)
授業の概要 / Summary of the class	練習曲を通してピアノの基礎的なテクニック (指の形、演奏時の姿勢、レガート、スタッカート等) を習得し、それをこの講義では、主にバッハを中心としたバロック作品の演奏研究へとつなげます。 また、声楽曲や器楽曲の伴奏では、お互いの音を聴く、一緒に表現する、といったアンサンブルの素地を養います。

<p>授業の内容予定 / Contents plan of the class</p>	<p>授業内容と進行は受講生の関心と理解度、習熟度に応じて適宜変更する。</p> <p>練習曲 第1回：ガイダンス及び課題曲の決定 第2回：音階と分散和音・練習曲 第3回：ハノン (教本は一例です。各自の進度によって決定します) 第4回：ツェルニー (教本は一例です。各自の技術レベルによって決定します。取り組む課題は、初回に決定したものです。) 第5回：ベルティニー (教本は一例です。各自の進度および関心によって決定します。取り組む課題は、初回に決定したものです。) 第6回：ドホナーニ (教本は一例です。各自の関心によって決定します。取り組む課題は、初回に決定したものです。) 第7回：まとめと次の課題曲の決定</p> <p>バロック作品の演奏研究 第8回：バッハを中心としたバロック作品の演奏研究(曲想、テンポ、拍子) 第9回：バッハを中心としたバロック作品の演奏研究(楽曲構造、和声進行) 第10回：バッハを中心としたバロック作品の演奏研究(時代背景) 第11回：バッハを中心としたバロック作品の演奏研究(アーティキュレーション) 第12回：バッハを中心としたバロック作品の演奏研究(暗譜)</p> <p>伴奏について 第13回：伴奏実践1(声楽曲または器楽曲) 第14回：伴奏実践2(声楽曲または器楽曲)</p> <p>試験 第15回：第8回～第12回で取り扱った独奏課題1曲および第13回、第14回で取り扱った伴奏課題1曲の発表および学びの振り返り</p> <p>毎回評価の対象とするので十分に準備をするようにしてください。 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。メディア授業実施の場合はTeamsを使用します。</p>
<p>成績評価方法及び採点基準 / A scholastic evaluation method and marking standard</p>	<p>毎時間の課題習得度と課題を探究する姿勢(60%) 毎時間の授業ノート(20%) 試験(20%)</p> <p>以上を総合して評価します。</p>
<p>予習及び復習等の内容 / Contents such as preparations for lessons and the review</p>	<p>授業内で示した課題を1日40分以上、十分に練習ならびに勉強して次の授業に臨んでください。</p>
<p>教材・教科書 / The teaching materials, textbook</p>	<p>随時、資料を配布します。</p>
<p>参考文献 / bibliography</p>	<p>ピアノの演奏法 アンスガー・ヤンケ、晴美・ヤンケ『ピアノ・テクニクの科学 - プロフェッサー・ヤンケのピアノ・メソッド』(アルテスパブリッシング) 古屋晋一『ピアニストの脳を科学する - 超絶技巧のメカニズム』(春秋社)</p> <p>バロック作品の演奏法 H. P. シュミッツ『後期バロック音楽の演奏原理』(シンフォニア) トン・コープマン『トン・コープマンのバロック音楽講義』(音楽之友社) パウル・バドゥーラ＝スゴダ『バッハ演奏法と解釈 - ピアニストのためのバッハ』(全音楽譜出版社)</p> <p>ほか、授業内で適宜紹介します。</p>
<p>留意点・予備知識 / Point to keep in mind, background</p>	<p>コピー楽譜は認めません。使用する楽曲の楽譜は原則購入してください。</p>
<p>授業内容に関する質問・疑義等 / Question, doubt about class contents</p>	<p>メールにてアポイントを取って下さい。</p>

Eメールアドレス・HPアドレス / E-mail address, HP address	n.oda7[A]hirosaki-u.ac.jp [A]は@のことです。
学問分野1 (主学問分野) / Discipline 1	A01: 思想, 芸術およびその関連分野
学問分野2 (副学問分野) / Discipline 2	A09: 教育学およびその関連分野
学問分野3 (副学問分野) / Discipline 3	A02: 文学, 言語学およびその関連分野
実務経験のある教員による授業科目について / About the class subject by the teacher with the work experience	実務経験
地域志向科目 / Local intention subject	なし
授業形態・授業方法 / Class form, class method	全体指導、個人指導 (メディア授業に移行した場合は、Teamsで実施します。)
科目ナンバー / The subject number	P1-2-0272-A01
メディア授業による著作物利用の有無について / Whether or not copyrighted works are used in media classes	有 / Yes
その他 / Others	実務経験は演奏家(ピアニスト)としての経験である。